

行動編



横須賀市立船越小学校5年 鎌苅 心優さん
平成27年度 環境ポスターコンクール 東京電力藤沢支社賞
(学校名、学年は平成27年度)

● 行動編について

第4章までは、環境像と基本目標に基づく指標と施策の方向、リーディングプロジェクト、地域別計画を展開してきました。これらは、市が実施する事業の基礎となるものですが、今日の複雑化・多様化する環境問題に対応していくには、行政だけでなく市民や事業者の役割も重要です。省エネ行動、ごみの分別、環境にやさしい商品の購入といった行動が、地球温暖化対策やごみの減量化・資源化に資することは広く知られているところです。

行動編では環境負荷の低減やよりよい環境の保全・創造に向けて、市民・事業者が日常生活および事業活動においてどのような行動が望ましいかについて、行動・配慮指針として示しています。行動・配慮指針は市民と事業者に分けられ、それぞれ本計画の体系に沿って整理されています。

市民は、日常生活と環境との関わりについて理解を深め、環境負荷の低減に努めるとともに、事業者および市との協働にも配慮することが求められます。

事業者は、自らの事業活動が環境へ及ぼす影響を認識し、環境負荷の低減その他環境の保全および創造に努めるとともに、市民および市との協働にも配慮することが求められます。

行動編は、当初計画には掲載されていませんでしたが、中間見直しを機に追加掲載することとしました。

次ページ以降に日常生活および事業活動における配慮指針を掲げています。日々の行動をチェックして、日常生活・事業活動を環境に配慮したものへと改善していきましょう。



1 環境にやさしい市民の行動・配慮指針

(1) 自然環境の保全・創出のための行動・配慮指針

■ みどりの保全・創出と活用

① みどりの保全

- 「緑のよこすかチャリティークリック」や「みどりの基金」など、みどりのための財源確保に協力しましょう。
- 住宅の新築・増築時には、周辺の自然環境を壊さないように十分配慮しましょう。
- 民有斜面緑地など私有地のみどりの適正な維持管理に努めましょう。
- 緑地協定の締結による緑地保全・緑化を進めましょう。
- 農地および生産緑地の適正な管理を心掛けましょう。
- 里山的環境を保全・再生し活用する活動に参加しましょう。

② みどりの創出

- 「民有地緑化支援制度」などを活用し、所有地の道路面・駐車場や所有建築物の壁面・屋上を緑化しましょう。
- 【再掲】 緑地協定の締結による緑地保全・緑化を進めましょう。

③ みどりとのふれあいの推進

- 住宅の新築・増改築時には、街の景観などを損なわないよう十分配慮しましょう。
- 【再掲】 里山的環境を保全・再生し活用する活動に参加しましょう。

■ 水辺環境の保全・創出と活用

① 河川環境の保全と創出

- 浄化槽は、定期的に清掃・保守点検・法定検査を受けましょう。
- 市民団体などの清掃美化活動に参加してみましょう。
- 下水道事業計画区域外の単独処理浄化槽は、合併処理浄化槽に設置替えしましょう。

② 海域環境の保全と創出

- バーベキューや花火の後始末をきちんとするなど、マナーを守りましょう。
- 【再掲】 住宅の新築・増改築時には、街の景観などを損なわないよう十分配慮しましょう。
- 【再掲】 浄化槽は、定期的に清掃・保守点検・法定検査を受けましょう。
- 【再掲】 下水道事業計画区域外の単独処理浄化槽は、合併処理浄化槽に設置替えしましょう。
- 【再掲】 市民団体などの清掃美化活動に参加してみましょう。

③ 水とのふれあいの推進

- 市や環境関連団体などが実施する自然観察会や自然環境調査等へ参加や協力をしましょう。

■ 生物多様性の保全・再生と活用

① 生物多様性の保全・再生

- 特定外来生物や有害鳥獣に関する正しい知識を身につけ、ペットは最後まで責任を持って飼いましょう。
- 地域固有の生態系を保全するため、本来その地域に生息しない動植物は持ち込まないようにしましょう。
- 自生する動植物はむやみに持ち帰らないなど、野鳥や昆虫、植物など生き物を大切にしましょう。

② 生物とのふれあいの推進

- 魅力ある自然観光資源を守りながら、身近にふれあうことができる横須賀エコツアーに参加しましょう。
- 【再掲】市や環境関連団体などが実施する自然観察会や自然環境調査等へ参加や協力をしましょう。
- 【再掲】里山的環境を保全・再生し活用する活動に参加しましょう。

■ 自然災害の防止と抑止

① 自然災害の未然防止

- 急傾斜地や狭小な谷戸、活断層など災害に脆弱な土地に住む人は、県や市と相談するなどし、災害対策に努めましょう。
- 住宅の新築・増改築時には、雨水を地下に浸透させる雨水浸透ますの設置などを検討しましょう。
- 【再掲】民有斜面緑地など私有地のみどりの適正な維持管理に努めましょう。
- 敷地内のみどりや土の面を確保し保水力を高めましょう。

② 自然災害の被害の軽減

- 家庭用の雨水貯留施設の設置や再生水の利用を検討しましょう。
 - 日頃から家族や近所同士で、避難場所を確認しておくよう心掛けましょう。
 - 住宅の増改築時には、耐震診断を受けて、耐震補強工事を検討しましょう。
-

(2) 生活環境の保全・改善のための行動・配慮指針

■ 生活環境の保全・改善

① 大気環境の保全・改善

- 自動車を運転する際には、エコドライブ（アイドリングストップ、急発進・急加速の抑制、適切な点検・整備など）を心掛けましょう。

② 水・土壌環境の保全・改善

- 食器の油污れは、新聞紙などで拭き取ってから洗いましょう。
- 米のとぎ汁は、排水口に流さず、樹木にまくなど心掛けましょう。
- 台所や洗濯で使用する洗剤は、環境への負荷の少ないものを選び、適量使用に努めましょう。
- 【再掲】浄化槽は、定期的に清掃・保守点検・法定検査を受けましょう。
- 【再掲】下水道事業計画区域外の単独処理浄化槽は、合併処理浄化槽に設置替えしましょう。

③ 化学物質対策の推進

- 化学物質に関する正しい知識を身につけるよう努め、環境に配慮した製品・サービスを選択するよう心掛けましょう。

④ 歴史的・文化的環境の保全と継承

- 歴史的文化遺産や伝統行事・伝統芸能について理解を深め、その保全などに協力しましょう。

⑤ その他の生活環境の保全・改善

- 庭先などでのごみの焼却はやめましょう。
- ペットの糞尿は、飼い主がきちんと始末しましょう。
- 日常生活の中で、近隣騒音が生じないように心掛けましょう。
- 敷地内の枝や雑草（空き地含む）は、隣家や通行人などの迷惑にならないように、剪定や刈り取りを行いきちんと管理しましょう。
- 隣家への日照などに配慮し、建物を建築しましょう。

(3) 低炭素社会の構築のための行動・配慮指針

■ 地球温暖化対策の推進

① 温室効果ガスの削減および吸収源の増加

- リユース・リサイクルしやすい製品や再生資源を利用した製品を選択するグリーン購入を心掛けましょう。
- 商品のカーボンフットプリント（製造・流通過程において排出される温室効果ガス排出量のラベル表示）をチェックしてみましょう。
- 【再掲】「民有地緑化支援制度」などを活用し、所有地の道路面・駐車場や所有建築物の壁面・屋上を緑化しましょう。

② 地球温暖化適応策の推進

- ヒートアイランド対策として、打ち水や緑のカーテンに取り組んでみましょう。
- 【再掲】家庭用の雨水貯留施設の設置や再生水の利用を検討しましょう。
- 【再掲】敷地内のみどりや土の面を確保し保水力を高めましょう。
- 【再掲】住宅の新築・増改築時には、雨水を地下に浸透させる雨水浸透ますの設置などを検討しましょう。

③ 都市交通に係る環境負荷の低減

- 電車やバスなどの公共交通機関や自転車の利用を心掛けましょう。
- 自動車の買い替え時には、ハイブリッド車やEV（電気自動車）など環境負荷の少ない自動車を優先的に購入するよう心掛けましょう。
- 買い物の際には、地場の海産物や農産物などを積極的に購入し、地産地消を通じて、輸送に伴うエネルギー消費の削減に貢献しましょう。
- 【再掲】自動車を運転する際には、エコドライブ（アイドリングストップ、急発進・急加速の抑制、適切な点検・整備など）を心掛けましょう。



カーボンフットプリント・マーク

■ エネルギー対策の推進

① 省エネルギー対策の推進

- 照明器具や家電製品の不必要なつけっぱなしに気を付け、プラグを抜くなど待機電力を減らしましょう。
- 照明器具や冷暖房機器・掃除機のフィルターをこまめに掃除しましょう。
- 白熱灯をLEDなどの省エネ型照明に切り替えていきましょう。
- 冷暖房機器の使用にあたっては、適切な温度設定を心掛けましょう。
- 冷蔵庫には適量を入れ、開け閉めは少なくしましょう。
- 水漏れの点検をこまめに行い、シャワーや洗い物などをしているときの水の流しっぱなしに気を付けましょう。
- 鍋の外側の水滴を拭き取ってから加熱しましょう。
- 給湯器は、できるだけ省エネ型のものを選び、適正に使用しましょう。
- お風呂には続けて入り、浴槽にはフタをしましょう。
- 家電製品を買い替えるときは、省エネ型の家電製品を選びましょう。
- 住宅の新築・増改築時には、通風性・自然光の有効活用に配慮した設計、断熱材や複層ガラス窓の導入など、省エネルギー性能の高い住宅の選択に努めましょう。
- 電力の見える化に役立つ「ワットモニター」や「省エネナビ」などを使用してみましょう。
- 温水洗浄便座は、温度を低めに設定し、使わないときはフタを閉めましょう。

② 再生可能エネルギーの利用

- 太陽光発電システムなどの導入を検討しましょう。



ワットモニター

(4) 資源循環型社会の形成のための行動・配慮指針

■ ごみの減量化・資源化、適正処理の推進

① ごみの減量化の推進

- ごみが出ないように不要な買い物を控えるとともに、マイ箸、マイカップ、マイボトルなどを利用して使い捨て製品の利用を減らしましょう。
- 買い物際には、マイバッグを持参し、レジ袋などの使用を減らしましょう。
- 食べ残しの削減、水切りの徹底など、生ごみの減量に努めましょう。
- 家庭用生ごみ等減量化処理機器（電気式の生ごみ処理機や小枝粉碎機など）の購入を検討しましょう。
- 長く使えて修理しやすい製品の購入に努めましょう。また、廃棄された後に環境への負荷が少ない製品を利用しましょう。
- 過剰包装は断り、簡易包装の製品を選択し、シャンプーや洗剤などは、詰め替え可能な製品を優先しましょう。

② ごみの資源化の推進

- 自治会や子ども会の行う集団資源回収・バザーなどのリサイクル活動に積極的に協力しましょう。
- 小売店などが実施しているリターナブルびんやトレイ、ペットボトル、紙パックなどの分別回収に協力しましょう。
- 【再掲】 リユース・リサイクルしやすい製品や再生資源を利用した製品を選択するグリーン購入を心掛けましょう。

③ ごみの適正処理の推進

- ごみを出すときは、正しく分別して出しましょう。
- 代替フロン等を使用した製品を廃棄する際には、適正な回収・処理に協力しましょう。
- 建築廃材の適正な処理のできる業者を選びましょう。
- 【再掲】 庭先などでのごみの焼却はやめましょう。
- 【再掲】 市民団体などの清掃美化活動に参加してみましょう。
- 【再掲】 バーベキューや花火の後始末をきちんとするなど、マナーを守りましょう。

(5) 市民、事業者、市の協働による環境的側面、経済的側面、社会的側面の統合のための行動・配慮指針

■ 環境教育・環境学習の推進

① 環境教育・環境学習の推進のための体制づくり

□ 環境に関する専門的知識や経験を有する「環境教育指導者」の出前授業を受けてみましょう。

② 環境教育・環境学習の機会の充実

□ 市や環境関連団体などが主催する環境学習会などへ積極的に参加しましょう。

□ 環境問題に関するニュースや市から出される環境に関する報告書を読んでみましょう。

■ 経済・社会活動との調和

① 環境と調和した経済活動の推進

□ 開発途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入する「フェアトレード」について調べてみましょう。

□ 【再掲】 買い物際には、地場の海産物や農産物などを積極的に購入し、地産地消を通じて、輸送に伴うエネルギー消費の削減に貢献しましょう。

② 環境と調和した社会活動の推進

□ グループで環境保全活動を企画して、実行してみましょう。

□ 【再掲】 魅力ある自然観光資源を守りながら、身近にふれあうことができる横須賀エコツアーに参加しましょう。

□ 【再掲】 開発途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入する「フェアトレード」について調べてみましょう。



環境教育指導者の出前授業

2 環境にやさしい事業者の行動・配慮指針

(1) 自然環境の保全・創出のための行動・配慮指針

■ みどりの保全・創出と活用

① みどりの保全

- 開発事業などの実施に際しては、周辺の自然環境を必要以上に壊すことのないように十分配慮するとともに、みどりの保全・創出を工夫しましょう。
- 民有斜面緑地など私有地のみどりの適正な維持管理に努めましょう。
- 「緑のよこすかチャリティークリック」や「みどりの基金」など、みどりのための財源確保に協力しましょう。
- 緑地協定の締結による緑地保全・緑化を進めましょう。
- 農地および生産緑地の適正な管理を心掛けましょう。

② みどりの創出

- 「民有地緑化支援制度」などを活用し、所有地の道路面・駐車場や所有建築物の壁面・屋上を緑化しましょう。
- 【再掲】 開発事業などの実施に際しては、周辺の自然環境を必要以上に壊すことのないように十分配慮するとともに、みどりの保全・創出を工夫しましょう。
- 【再掲】 緑地協定の締結による緑地保全・緑化を進めましょう。

③ みどりとのふれあいの推進

- CSR（企業の社会的責任）活動として、社員・家族参加型のレクリエーションを兼ねた環境保全活動などに取り組みましょう。
 - 環境関連団体などが実施する緑化運動等の地域の環境保全活動に協力・支援しましょう。
 - 建築や看板の設置に際しては、街の景観などを損なわないよう十分配慮しましょう。
-

■ 水辺環境の保全・創出と活用

① 河川環境の保全と創出

- 浄化槽は、定期的に清掃・保守点検・法定検査を受けましょう。
- 市民団体などの清掃美化活動に協力・支援しましょう。
- 事業の実施に伴い汚水の発生がある場合は、最新の排水処理技術の導入や排水処理施設の適正な管理などにより発生負荷量の抑制に努めましょう。

② 海域環境の保全と創出

- 【再掲】 市民団体などの清掃美化活動に協力・支援しましょう。
- 【再掲】 建築や看板の設置に際しては、街の景観などを損なわないよう十分配慮しましょう。
- 【再掲】 浄化槽は、定期的に清掃・保守点検・法定検査を受けましょう。
- 【再掲】 事業の実施に伴い汚水の発生がある場合は、最新の排水処理技術の導入や排水処理施設の適正な管理などにより発生負荷量の抑制に努めましょう。

③ 水とのふれあいの推進

- 市や環境関連団体などが実施する自然観察会や自然環境調査等に協力しましょう。
-

■ 生物多様性の保全・再生と活用

① 生物多様性の保全・再生

- 特定外来生物や有害鳥獣に関する正しい知識を身につけ、生態系に被害を及ぼさないようにしましょう。
- 地域固有の生態系を保全するため、本来その地域に生息しない動植物は持ち込まないようにしましょう。
- 【再掲】 開発事業などの実施に際しては、周辺の自然環境を必要以上に壊すことのないように十分配慮するとともに、みどりの保全・創出を工夫しましょう。

② 生物とのふれあいの推進

- 【再掲】 市や環境関連団体などが実施する自然観察会や自然環境調査等へ参加や協力をしましょう。
 - 【再掲】 CSR（企業の社会的責任）活動として、社員・家族参加型のレクリエーションを兼ねた環境保全活動などに取り組みましょう。
-

■ 自然災害の防止と抑止

① 自然災害の未然防止

- 敷地内に雨水を地下に浸透させる雨水浸透施設等の設置を検討しましょう。
- 敷地内のみどりや土の面を確保し保水力を高めましょう。
- 【再掲】 開発事業などの実施に際しては、周辺の自然環境を必要以上に壊すことのないように十分配慮するとともに、みどりの保全・創出を工夫しましょう。
- 【再掲】 民有斜面緑地など私有地のみどりの適正な維持管理に努めましょう。

② 自然災害の被害の軽減

- 雨水貯留施設の設置や再生水の利用に努めましょう。
 - 耐震補強工事の検討など、施設の災害防止対策を進めましょう。
 - 災害時に備え、近隣や町内会等との協力体制の確認等を図りましょう。
-

(2) 生活環境の保全・改善のための行動・配慮指針

■ 生活環境の保全・改善

① 大気環境の保全・改善

- 自動車を運転する際には、エコドライブ（アイドリングストップ、急発進・急加速の抑制、適切な点検・整備など）を心掛けましょう。
- 代替フロンの使用量削減を進め、やむを得ず使用する場合には、使用後の回収や再利用を徹底しましょう。
- 事業の実施に伴い発生する排煙は、最新の排煙処理技術の導入や排煙処理装置の適正な管理などにより環境負荷の低減に努めましょう。

② 水・土壌環境の保全・改善

- 【再掲】浄化槽は、定期的に清掃・保守点検・法定検査を受けましょう。
- 【再掲】事業の実施に伴い汚水の発生がある場合は、最新の排水処理技術の導入や排水処理施設の適正な管理などにより発生負荷量の抑制に努めましょう。

③ 化学物質対策の推進

- 有害化学物質の適正管理・適正処理を徹底し、周辺住民等の健全な生活環境の確保を図りましょう。

④ 歴史的・文化的環境の保全と継承

- 歴史的文化遺産や伝統行事・伝統芸能について理解を深め、その保全などに協力しましょう。

⑤ その他の生活環境の保全・改善

- 敷地内でのごみの焼却はやめましょう。
- 開発や事業などの実施に際しては、騒音などが生じないように心掛けましょう。
- 臭気を発生する施設は、密閉性の高い建屋内に設置するとともに、高効率の脱臭装置を設置しましょう。
- 敷地内の枝や雑草（空き地含む）は、隣接する施設や通行人などの迷惑にならないように、剪定や刈り取りを行いきちんと管理しましょう。
- 隣家への日照などに配慮し、建物を建築しましょう。

(3) 低炭素社会の構築のための行動・配慮指針

■ 地球温暖化対策の推進

① 温室効果ガスの削減および吸収源の増加

- リユース・リサイクルしやすい製品や再生資源を利用した製品を選択するグリーン購入を心掛けましょう。
- 【再掲】代替フロンの使用量削減を進め、やむを得ず使用する場合には、使用後の回収や再利用を徹底しましょう。
- 【再掲】「民有地緑化支援制度」などを活用し、所有地の道路面・駐車場や所有建築物の壁面・屋上を緑化しましょう。

② 地球温暖化適応策の推進

- 夏は日差しを和らげ室内を涼しくする「緑のカーテン」を活用してみましょう。
- 雨水などを利用して、打ち水をしましょう。
- 【再掲】雨水貯留施設の設置や再生水の利用に努めましょう。
- 【再掲】敷地内のみどりや土の面を確保し保水力を高めましょう。
- 【再掲】敷地内に雨水を地下に浸透させる雨水浸透施設等の設置を検討しましょう。

③ 都市交通に係る環境負荷の低減

- 電車やバスなどの公共交通機関や自転車の利用を心掛けましょう。
- 自動車の買い替え時には、ハイブリッド車やEV(電気自動車)など環境負荷の少ない自動車を優先的に購入するよう心掛けましょう。
- 地産地消を通じて、輸送に伴うエネルギー消費の削減に貢献しましょう。
- 【再掲】自動車を運転する際には、エコドライブ(アイドリングストップ、急発進・急加速の抑制、適切な点検・整備など)を心掛けましょう。

■ エネルギー対策の推進

① 省エネルギー対策の推進

- 不要な照明はこまめに消しましょう。
- 電化製品の不必要なつけっぱなしに気を付け、節電タップを利用するなど待機電力を減らしましょう。
- 照明器具や冷暖房機器などをこまめに掃除しましょう。
- エレベーターなどの利用を控え、できるだけ階段を利用しましょう。
- 冷暖房機器の使用にあたっては、適切な温度設定を心掛けましょう。
- 機材や設備の導入・更新に際しては、省エネルギー型や節水型を選択し、適正に使用しましょう。
- 省エネ法を遵守し、事業所のエネルギー使用量を把握しましょう。
- 機械の洗浄や洗車の際には、水の流しっぱなしに気を付けましょう。
- 業務時間の合理化を図りましょう。
- 通風性・自然光の有効活用に配慮した設計、断熱材や複層ガラス窓の導入など、省エネルギー性能の高い建築に努めましょう。
- 電力の見える化に役立つ「ワットモニター」や「省エネナビ」などを使用してみましょう。
- 温水洗浄便座は、温度を低めに設定し、使わないときはフタを閉めましょう。
- 【再掲】地産地消を通じて、輸送に伴うエネルギー消費の削減に貢献しましょう。

② 再生可能エネルギーの利用

- 太陽光発電システムなどの導入を進めましょう。



省エネナビ

(4) 資源循環型社会の形成のための行動・配慮指針

■ ごみの減量化・資源化、適正処理の推進

① ごみの減量化の推進

- 両面印刷や使用済み用紙の裏面利用を心掛け、紙の節約に努めましょう。
- 長く使えて修理しやすい部品や製品の購入に努めましょう。また、製造業者は長持ちする製品づくりに努め、廃棄された後に環境への負荷が少ない製品の開発に努めましょう。

② ごみの資源化の推進

- 分別回収を徹底し、リサイクルの推進に努めましょう。
- 【再掲】 リユース・リサイクルしやすい製品や再生資源を利用した製品を選択するグリーン購入を心掛けましょう。

③ ごみの適正処理の推進

- ごみを出すときは、正しく分別して出しましょう。
 - 建築廃材の適正な処理に努めましょう。
 - 【再掲】 代替フロンの使用量削減を進め、やむを得ず使用する場合には、使用後の回収や再利用を徹底しましょう。
 - 【再掲】 敷地内でのごみの焼却はやめましょう。
-

(5) 市民、事業者、市の協働による環境的側面、経済的側面、社会的側面の統合のための行動・配慮指針

■ 環境教育・環境学習の推進

① 環境教育・環境学習の推進のための体制づくり

- 社員が、事業活動のあらゆる場面において、環境への配慮ができるよう、環境の保全に関する研修を実施しましょう。
- 環境に関する専門的知識や経験を有する「環境教育指導者」の出前授業を受けてみましょう。

② 環境教育・環境学習の機会の充実

- 市や環境関連団体などが主催する環境学習会などへ協力・支援しましょう。
- 【再掲】社員が、事業活動のあらゆる場面において、環境への配慮ができるよう、環境の保全に関する研修を実施しましょう。

■ 経済・社会活動との調和

① 環境と調和した経済活動の推進

- 開発途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入する「フェアトレード」を推進しましょう。
- 【再掲】地産地消を通じて、輸送に伴うエネルギー消費の削減に貢献しましょう。

② 環境と調和した社会活動の推進

- ISO14001 やエコアクション 21 などの環境マネジメントシステムの認証取得など、環境保全のための体制づくりや仕組みづくりに取り組みましょう。
- 海外の環境問題の改善に協力するため、人材の派遣や研修の受け入れ等に努めましょう。
- 【再掲】CSR（企業の社会的責任）活動として、社員・家族参加型のレクリエーションを兼ねた環境保全活動などに取り組みましょう。
- 【再掲】環境関連団体などが実施する緑化運動等の地域の環境保全活動に協力・支援しましょう。
- 【再掲】開発途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入する「フェアトレード」を推進しましょう。

C S R (Corporate Social Responsibility : 企業の社会的責任)

企業の社会的責任というと、有用な製品やサービスの提供、株主配当、雇用の創出、納税などを思い起こしますが、近年はこれに加えて情報公開、環境への配慮、地域社会への貢献、雇用の機会均等、人権に対する配慮などを含めて「C S R (企業の社会的責任)」と呼んでいます。

C S Rの理念は、企業が社会的責任を果たすことによって持続可能な社会づくりに貢献するとともに、企業は社会的な信頼を得ることによって長期的に事業を継続させることができる、というものです。

社会的責任というと義務的に思われますが、法令で定められたこと以外に自主的な行動も含まれます。2010年(平成22年)11月にはC S Rの国際規格であるI S O26000「社会的責任に関する手引」が発行され、その中で7つの中核主題と36の実践課題が明記されています。

現在有名企業を中心に「C S R報告書」が定期的に作成され、自社のC S Rに係る規約、目標、行動指針、実践報告などを公表しています。C S R報告書に掲載されている環境配慮、地域社会への貢献に関する実践例として以下のようなものがあります。

事例 ① 子どもたちに豊かな自然を (機械製造業)

子どもたちの未来に多様な生き物が生息する豊かなふるさとを残すため、環境保全活動および環境教育を各地で展開しています。この取り組みには現地のN P O法人や地域住民、従業員とその家族、取引先などのステークホルダーが参加します。具体的には森林の整備活動や棚田の保全活動、耕作放棄地の再生、干潟の清掃活動などを行っています。

事例 ② 地球環境に配慮した教材 (楽器製造業)

学校の音楽教育で使用されるリコーダーの素材に、バイオマス由来の樹脂を使用することに成功。化石資源と違い再生産が可能な植物由来の素材を使用しているため二酸化炭素排出量の削減につながります。子どもたちにとっては身近な教材から環境への配慮を学ぶことができるとともに、メーカーにとっては環境配慮製品の開発促進、教育楽器市場での差別化といったメリットが期待できます。

事例 ③ 布切れをあつめて遊具に (飲料製造業)

従業員が持ち寄って裁断した布を、カンボジアで支援活動をするN P O法人に寄贈する取り組み。布は現地で人形やボールに加工され子どもたちの遊具になります。カンボジアは内戦で30代以上の男性が少なく、この遊具づくりが家計を支える保護者の貴重な収入源になっています。

